

第2回北広島市総合計画推進委員会 会議録

第2回 北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成24年9月6日(木) 15:00~17:20
会 場	市役所本庁舎2階会議室
出席委員	天羽 浩委員、澤井将美委員、鈴木聡士委員、湯川恵子委員、桂 裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	【政策調整課】川村裕樹課長、志村 敦主査、河合真実主任 【行政推進課】川口昭広課長、大原秀紀主査、杉山正一主査 【財 政 課】中屋 直課長、宮本大介主査

1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、会議が成立していること」を確認した。

2. 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、湯川委員を第2回推進計画委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3. 連絡事項

【確認事項】総合計画推進委員会の進め方について

事務局から、資料に沿って説明。

委員から質疑があり、事務局から説明がなされた後、了承された。

○A委員 提言シートについて、最終的には委員会で政策・施策について提言をすることで、各部局に還元されていくということだが、同時に、議会にも反映されるようになるのか。

○事務局 提言シートは、委員会で出された意見を、どのように計画に反映させたかということを見えるような形で残すという位置づけで考えており、議会等に提示する予定はない。

【連絡事項】2013 推進計画の策定について

事務局から、資料に沿って説明。

4. 報告案件

【報告案件】平成24年度事務事業評価について

事務局から、資料に沿って説明。

○A委員 施策体系には載っているが、事務事業評価調書総括表にもれている施策があるように思う。23、24年度で事業が終了した、または、24年度新規だから評価をしていないというものがあるのか。

第2回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- 事務局 施策はあるが、具体的に事業がないということが実際にあるので、施策があっても、それに続く事業がないという部分はある。
- A委員 次年度以降、その施策に対する事業が発生することもあると捉え、施策そのものが23、24年で事業が終了したことによって、無くなった訳ではないということで理解する。
- A委員 重点プロジェクトの施策に事務事業がついているが、重点プロジェクトの事業を設定するときには、この重点プロジェクトにはこの施策の事務事業が必要だということで、選んでいったということで良いか。
- 事務局 その通り。

5. 議事

【議案1】子育て支援・人づくりプロジェクトに係る事務事業評価について

事務局から、資料に沿って説明。

各委員からの意見を受け、次回引き続き検討することとなった。

- A委員 子育て人づくり支援プロジェクト事業の37事業を選定した基準はあるのか。色々な施策の中で、これに関連する事業というのは相当数あるので、これが全てではないと思うが。
- 事務局 総合計画を作るにあたり、特徴を出すべきだという中で、3つの重点プロジェクトが定まり、その中の事業の抽出については、市が行っている。大きく言えば、ほぼ全てが重点プロジェクトの事業として拾われることになると思うが、その中でも特徴的なものを、各担当課と話し合いながら載せている。事業の足し引きについては制約がないため、先ずは今回この形で提示している。
- A委員 予算的に何か基準があり、その基準に基づいて審議していったものかという捉え方をしていたが、個人的意見として、これは子育て支援人づくりプロジェクト事業に入れても良いのではないかという様な事業や、逆にこれはプロジェクト事業に入れても仕方が無いのではないかという事業もある。その基準を、どのように決めたのかを教えていただきたい。
- 事務局 明確な基準はないので、客観的な視点の意見を色々いただき、できれば来年から追記したり外したりというようなこともしていきたいと思っている。
- A委員 この委員会はそういった外からの視点で見て、サジェッション(提案)していく様な形で進めていければ良いと思う。
- 子育て支援人づくりプロジェクト事業にかかる事業が、どれだけあるかや、事業の特性等を一覧にしたものを見て、全体がわかった上で、こ

第2回北広島市総合計画推進委員会 会議録

れは早急に入れるべきだとか、見直した方が良いだとかいうやり方が進めやすいかと思う。

- 委員長 事前に資料を読んで、その上で意見をこの場で提言するといったイメージか。
- 事務局 今回示した 37 事業の他に、重点プロジェクトに関連する事業がどれだけあるのかといったものを、会議が終わった後に事務局で整理をして、各委員に配布して、次回の会議でご意見をいただきたい。また、37 事業についての検証というの、していただきたいと思う。
- 委員長 基本的には、評価についての検証の作業と、37 事業以外の事業の横断的な議論をしても良いという事で進めたい。
- B 委員 事務事業評価調書の評価区分は、資料のどこかに書いてあるのか。
- 事務局 報告書の 4 ページに記載している。
- B 委員 重点プロジェクトについて、学校図書整備事業は評価見直しということだが、文面を見ると、購入計画の見直しというのは文言通りとしても、管理システムの有効活用となると、業務の改善という意味合いかと思うのだが、こういったものも評価見直しという事になるのか。
- 事務局 全体的な内容として、購入計画と、管理システムが十分に活用されていないので活用する必要があるという評価である。
- A 委員 事業としては現状継続で、内容の見直しをしないと駄目だということだけではないのか。予算も変わらないのでは。
- 事務局 当初管理システムを入れたのは、学校間の図書の貸し借り等も含めて考慮していたのだが、現在行われていないので、可能性として、学校間の貸し借りをすることにより、全体事業費も落とせるのではないかという予算的な考えも含めて、見直しの可能性があるので担当課は検討することとして、見直しとしている。
- A 委員 全国ベースの図書の充足率ほどのくらいか
- 事務局 全国ベースはおさえていないが、充足率だけ見れば、当市は 100% を超えており、全国的に見ても、上の方ではあると考えている。
- 委員長 横断的に見ると、市の図書システムと学校の図書システムが有効に統合できたら、もっとうまくいくという印象がある。学校図書も、冊数だけあれば充足しているかもしれないが、古い本がいくらあっても余り意味がないので、もう少し有効的にできないかなという印象を持ったのだが、可能性も含めて、どのようなことが考えられるか。
- 事務局 学校と図書館の図書は、現在、完全に分けて管理しているが、この委員会で、そういう視点が必要ではないかということであれば、検討していきたいと思う。

第2回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- A委員 昨年、外部評価委員会で、図書館との連携について提言をしたが、全然反映がされていない。学校図書司書も、総合計画の中では全学校に配置するという計画だったが、なされておらず、検討してほしいと提言をしたはずだと思うが、どのようになっているのか。
- 事務局 外部評価委員会ではフィードバックがされていないという指摘を受けており、これを反省点として、今後は意見がどうなったかを反映していきたい。
- 図書館については、今後の市のあり方として、ホール運営も含め、管理体制についても検討していこうという議論がなされる。こういった部分も、教育委員会の検討結果等に出てくるはずであり、こういった部分もフィードバックしていきたいと考えている。
- また、最近は文科省も、学校図書の整備を強力に進めてきており、市立図書館、地区図書館の整備と、学校図書の整備ということで、データの整理をしつつ、学校間のやりとりも、今後出てくると思っている。学校の図書司書についても、交付税措置を拡大をしてきており、教育委員会も、来年度以降、順次整備を進めていきたいという意向である。
- 委員長 この問題は恐らくハードとしての本と、今後デジタル化が進み、デジタルで見られる時代が近く訪れると思われ、現在過渡期で難しいとは思いますが、色々見据えながら、何が良いのかを考えていく必要があると思う。
- D委員 図書館のようなサービスというのは、非常に理解がしやすく、改善についての議論がしやすいのだが、そういった形で事業をすべて見ていくと膨大な時間がかかる上に、目立つものだけがクローズアップされて、毎年図書館の蔵書について語るというような、ナンセンスな議論になるのではないのかなということが、心配である。
- 資料を見てみたが、評価の仕方がわかり難いため、部局の中でどのように事業を評価を進めたのかを教えていただきたい。
- 事務局 各担当課が自己評価で点数をつけたものを、定性分析表の担当課評価にまとめ、項目ごとの評価は、行政推進課内で、合議で1件ずつ検証している。
- D委員 項目が5評価のものもあれば、3つしかない事業もあり、例えばデータチャートにすると、形のいびつな5角形のようにになってしまう。
- こういった評価をどのようにしていくのかということとはとても重要で、精度をあげつつ、我々にもわかりやすいような、1枚で縦に一行に見られるような形で示されると、評価が稚拙なものであっても、ある程度の比較対照ができるのではないかと思うので、お願いしたいと思う。また、部局内での評価のみになっているので、市民評価も加味するような視点

第2回北広島市総合計画推進委員会 会議録

も、今後必要になってくるのかなというふう感じた。

○事務局

評価が始められた平成8年当時は、評価をすることが絶体的な部分であったが、最近はそれなりに標準的になり、評価の客観性についてもぐらついてきているのが事実であり、どこまでやっても精度が上がるのかという問題もある。当市のスタンスは、評価の精度を上げることもあるが、一定程度の評価をして、予算の前に政策議論の資料を出し、皆様方に議論をいただきたい。総合計画の全庁的な議論ができるのはこの場所だけなので、正確さは欠くかもしれないが、一種の検討材料として、何らかの足掛かりとなる議論をしていただきたいと考えている。

○D委員

実際にどういう議論があり、何がどう改正されたという情報は、とても大事なものになると思っており、去年より今年、今年よりも来年、より良いサービスができる方が良いとなった時に、去年議論されたことがどう改善されたのかという部分が、小さなことでも北広島市の強みになり、そこを育てていくことで、北広島市らしさが出てくるのではないかと思うので、その辺が見える様な、最終的な取りまとめができると良いと感じている。

○A委員

去年まで外部評価で評価、ランク付けをしてくださいと言われ、非常に難しかったのだが、今回の施策評価という大きな視点から見えるようにしていくというのは、進めやすいと感じる。

○E委員

子育て支援の中の幼稚園と保育園の関係について、支援施策はあがっているが、幼稚園児・保育園児に絡む事務事業が見えない。北広島市の保育園の待機児童数と幼稚園の入園倍率の現状について知りたい。

○事務局

保育園については、去年大曲に私立保育園が出来て、全体の定員枠が増えたことにより、解消できた。幼稚園については、市立幼稚園がないため最新情報はわからないが、各幼稚園も少子化のため、園児を確保する取組みを進めており、需要と供給は、それなりに保たれていると思う。

○E委員

北広島市は保育園が充足しているというような情報は、非常に重要と思う。待機児童数が多ければ大変な問題になるが、そうではないということは、かなり少子化が進んでいるのかと感じる。総合計画に幼稚園、保育園、小学校との連携強化が謳われているが、今後どのように考えるのか。特に、幼保一元化というのはこれから大きな問題になると思うが、北広島のこれからの考えを情報として発信していくべきと思う。小学校の統合は、将来的に幼稚園、保育園の質的な統合と関わると思うが、どのように支援していくのかということも含めて、今後の定住人口の増加に重要であると考えてるので、次回にでも、市として総合計画の中でどういう位置づけになるかを提示していただきたい。

第2回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- 委員長 人口を増やす、あるいは減らさないということが一番の目標である今、この話は非常に重要だと思う。次回提示していただきたい。
- B委員 今回は、この続きという理解でよいか。まだどのように進めるか理解しきれていないが、興味のある部分を取り上げて検討し、先に進むようなやり方を想定するというでよいか。
- 事務局 今回 37 の事業を提示したが、その事業の評価については、一定の市の見解をだしているもので、不足しているもの、異なる視点等の御意見をいただき、委員会としての方向性をまとめて、所管に下ろして行くというような流れを組みたい。事業 1 本ずつの中身の評価するというではない。
- B委員 プロジェクトの 37 事業を 1 つ 1 つ検討することはせず、また計画全体の話は基本的にしないという理解でよいか。
- 事務局 最終的に重点プロジェクト事業を何事業にするか等の議論だけではなく、重点プロジェクトを軸に、計画全体にいたるまで大いに意見を出していただき、意見をまとめ、一定の方向が出たものを、次に活かしていきたいということでご理解いただきたい。
- B委員 最終的には、各自の意見を羅列的に書くような報告書を残すというイメージでよいか。
- 事務局 ほぼそれに近い形でまとめて、計画に活かしていきたいと考えている。
- 委員長 最終期には提言シートで、どの様に反映させていくのかを整理して、次に活かし、推進に反映させるという位置づけで進めたいと思う。

6. その他（次回開催日程についてなど）

第3回推進委員会は、10月上旬を目途に開催することとした。

事務局で事前に質問シートを作成し、会議開催前に意見のある場合は、Eメールで事務局宛提出してもらうこととした。

- 委員長 資料を見ただけで意見がある場合には、事前にEメールで事務局に質問・意見等を送り、まとめていただくと、効率的に会議が進むと思うので、事務局には事前に質問シートを作り、いつまでに提出というメールを、1度委員に送っていただきたいと思う。また、意見交換の時間が限られている感覚があるので、可能であれば説明を短かくしていただきたい。

7. 閉会

会議録署名委員
